

だい き さ かい し しょうがい ふ く し けい かく
第4期堺市障害福祉計画

けい かく しょうがい
(計画について、わかりやすく紹介します)

- ◆ しょうがい ひと さかい し あんしん せい かつ
障害のある人が堺市で安心して生活できるようにしていくために、
しょうがい ひと ふく し
障害のある人のための福祉のサービスをどれくらい増やしていくか
というけい かく
計画をつくりました。
- ◆ わたし しょうがい ひと し せつ びょういん で ちいき あんしん
私たちは、障害のある人が、施設や病院から出て、地域で安心して
せい かつ さぎょうしょ はたら ひと かいしゃ はたら
生活できることや、作業所などで働いている人が、会社などで働け
るようしていくことがだい じ おも
大事なことだと思っています。それで、この
けい かく もくひょう き
計画では、目標を決めて、みんなでがんばっていくことにしています。
- ◆ けい かく へいせい ねん がつ へいせい ねん がつ ねんかん けい かく
この計画は、平成27年4月から平成30年3月までの、3年間の計画です。



●この計画の一番大事な考え方

①障害のある人が住み慣れた地域で、主体的に

②共生、協働のもと

③生き活きと輝いて暮らせる社会の実現

①「障害のある人が住み慣れた地域で、主体的に」暮らすことのできる社会って？

すべての障害のある人が自分の生活や人生を大切にされて、地域のなかで、自分の考えで自分らしく生活できる社会のことです。

②「共生、協働のもと」で暮らすことのできる社会って？

みんなが障害について正しく理解して、障害のある人もない人も地域のなかでいっしょに、あたりまえに生活できる社会、また、そうした地域をみんなでつくる社会のことです。

③「生き活きと輝いて暮らせる」社会って？

すべての障害のある人が地域のなかで安心して暮らし、自分の夢や、やりたいことをできる社会のことです。

●この計画の目標

<p>しょうがい ひと しせつ はい ひと しせつ で ちいき せいかつ 障害のある人で、施設に入っている人のうち、施設から出て、地域で生活 する人を増やします。</p>	
<p>へいせい ねん がつ しせつ で ひと かず 平成30年3月までに施設から出る人の数</p>	<p>にん 61人</p>
<p>しょうがい ひと しせつ はい ひと かず すく 障害のある人で、施設に入っている人の数を少なくします。</p>	
<p>へいせい ねん がつ すく ひと かず 平成30年3月までに少なくする人の数</p>	<p>にん 23人</p>
<p>せいしん しょうがい ひと びょういん なが にゅういん ひと びょういん 精神の障害のある人で、病院に長く入院している人のうち、病院から 出て、地域で生活する人を増やします。</p>	
<p>へいせい ねん がつ ねんかん すく にゅういん 平成29年6月までに、5年間で少なくする、入院し ている人の数</p>	<p>にん 273人</p>
<p>さぎょうしょ はたら ひと かいしゃ はたら ひと ふ 作業所などで働いている人のうち、会社などで働けるようになる人を増 やします。</p>	
<p>へいせい ねん がつ へいせい ねん がつ あいだ かいしゃ 平成29年4月から平成30年3月までの間に、会社 などで働けるようになる人の数</p>	<p>にん 169人</p>
<p>しょうがい ひと かいしゃ はたら くんれん はたら ぼしよ さが 障害のある人が、会社などで働けるように訓練をしたり、働く場所を探 す手助けをする、「就労移行支援」というサービスを使う人を増やします。</p>	
<p>へいせい ねん がつ つか ひと かず 平成30年3月に、サービスを使う人の数</p>	<p>にん 312人</p>
<p>さぎょうじょ はたら かね こうちん いま ふ 作業所などで働いてもらうお金（工賃）を、今よりも増やします。</p>	
<p>へいせい ねん げつ こうちん 平成29年度の1か月あたり工賃</p>	<p>えん 13,349円</p>
<p>しょうがい ひと こま そうだん ちいき せいかつ たいけん 障害のある人が、困ったときに相談したり、地域での生活を体験したり、 きんきゅう とき せいかつ ぼしよ さかいしな 緊急の時などにしばらく生活することのできる場所を、堺市内に1つ、 つくります。</p>	

● 障害のある人のための福祉のサービス

- ◆この計画では、障害のある人のための福祉のサービスをどれぐらい増やしていくかということを考えました。
- ◆サービスを使う人数や日数は、それぞれのサービスで、これまで、どれぐらい使われてきたかを見ながら、サービスを使いたくても使えていない人のことも考えて、これからどれぐらい増やしていかなければならないかを決めました。
- ◆また、前のページで、計画の目標として、施設や病院から出て、地域で生活する人の数を決めました。それで、この人たちがサービスを使うようになることも考えて、サービスをどれぐらい増やしていかなければならないかを考えました。
- ◆堺市で生活する障害のある人みんなが、必要なサービスを使うことができるように、福祉のサービスを行うところや、福祉のサービスで働く人をもっと増やしたり、障害の重い人でも使えるサービスを増やしたり、みんなが力を合わせて福祉のサービスをよくしていくためのしくみをつくっていきたいと思っています。

[障 害 のある人のための福祉のサービスの計画]

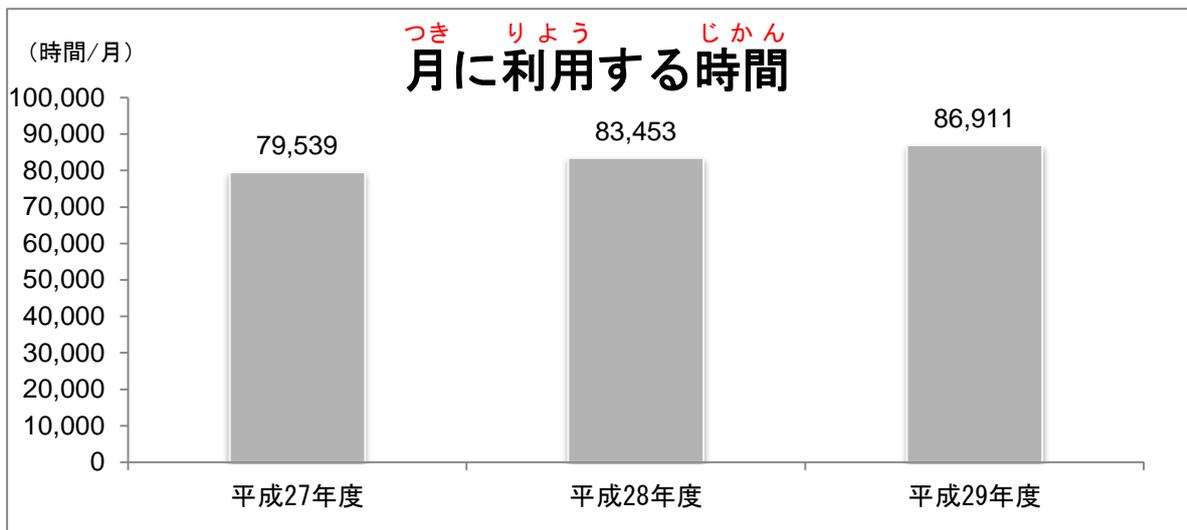
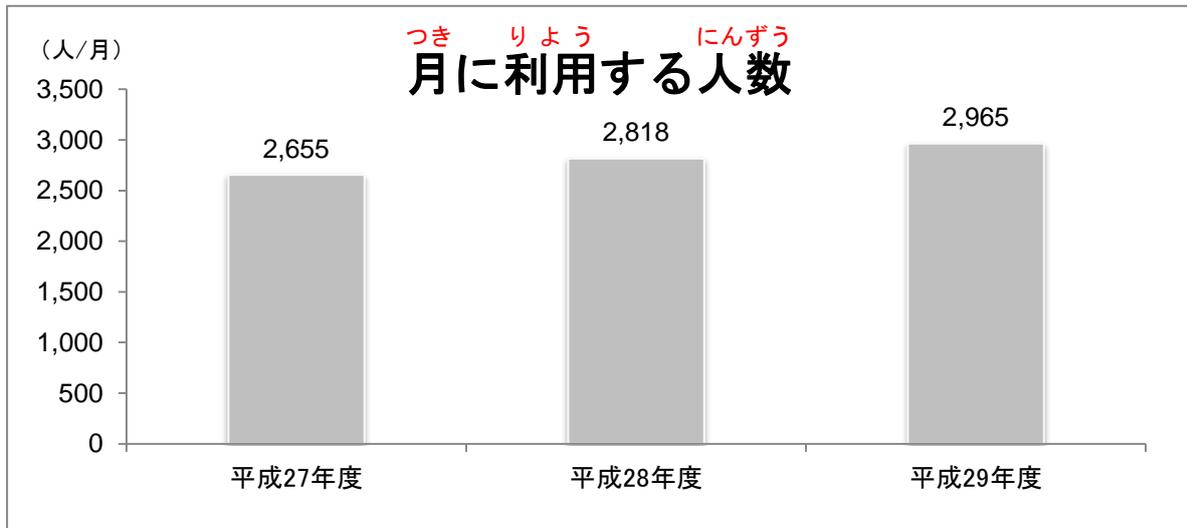
■ ホームヘルパーなどが家に行って手助けするサービス

サービスのなまえ	こんなサービスです
① ① 居宅介護 (ホームヘルプ)	ホームヘルパーが家に行って、おふろや食事、掃除・洗濯、買い物などの手助けをします。
② ② 重度訪問介護	重い障害のある人の家で、ホームヘルパーが生活の手助けをします。
③ ③ 行動援護	重い障害のある人で、ひとりでは危険なことをしてしまう心配のあるときに手助けをします。
④ ④ 同行援護	目の不自由な人が外出するときの手助けをします。
⑤ ⑤ 重度障害者等包括支援	特に重い障害のある人の生活を手助けするために、いろいろなサービスを組み合わせます。

①から⑤のサービスを使う人は…

平成27年度	平成28年度	平成29年度
①から⑤ぜんぶ合わせて 月に2,655人が 79,539時間使います。	①から⑤ぜんぶ合わせて 月に2,818人が、 83,453時間使います。	①から⑤ぜんぶ合わせて 月に2,965人が、 86,911時間使います。

<ホームヘルパーなどが家^{いえ}に行^いって手^て助^だけするサービス>



※①から⑤の合計^{ごうけい}



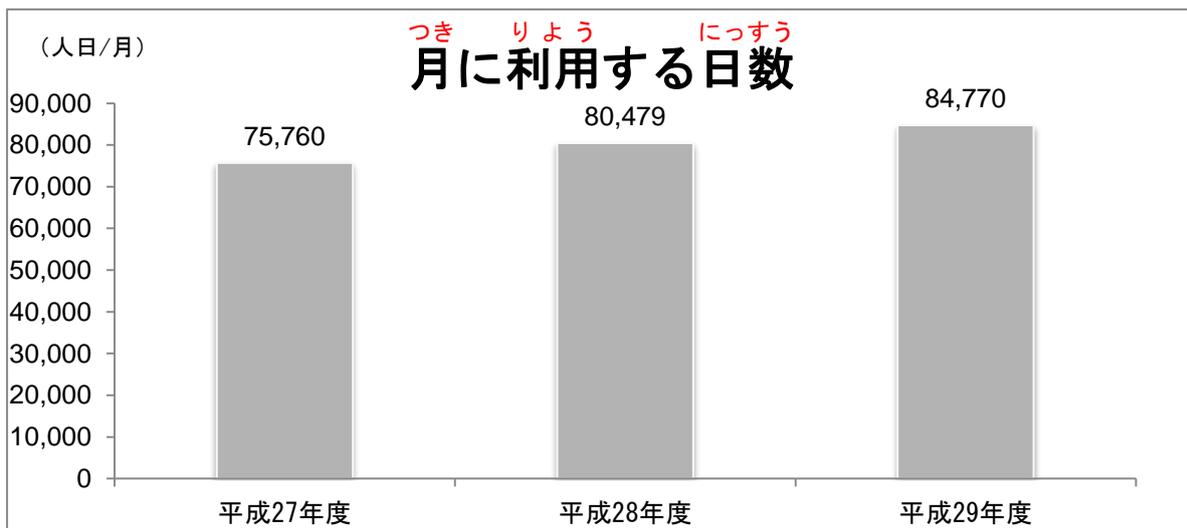
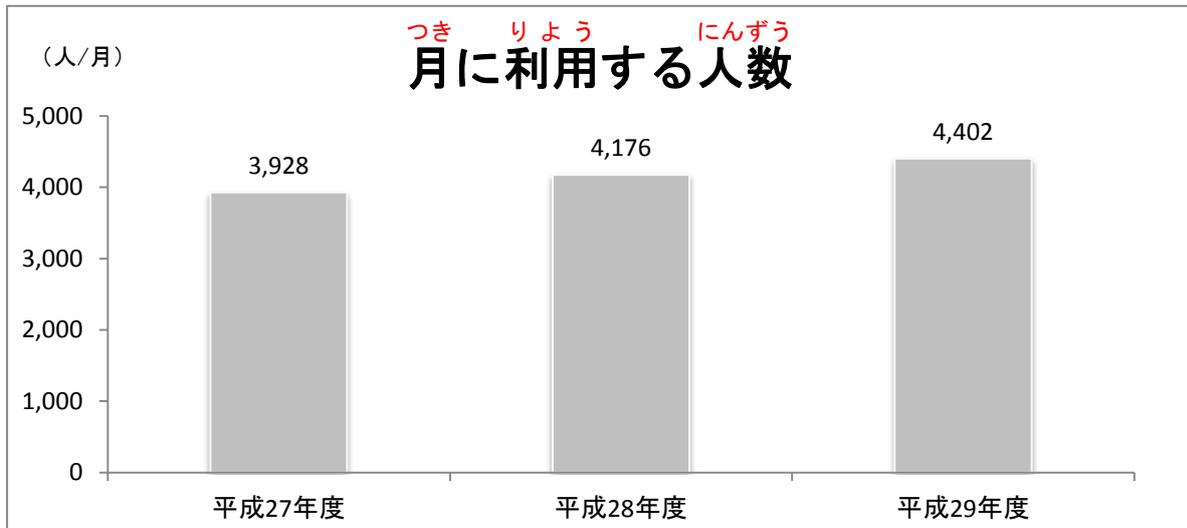
■ 障害のある人が通って手助けを受けるサービスなど

サービスのなまえ	こんなサービスです
①生活介護 <small>せいかつかいご</small>	重い障害のある人が、施設などで、おふろや食事の世話をうけたり、いろいろな活動をします。 <small>おもいしょうがいひとかよてだすう</small>
②自立訓練（機能訓練） ③自立訓練（生活訓練） <small>じりつくんれん きのうくんれん</small> <small>じりつくんれん せいかつくんれん</small>	身体を動かすための訓練や、生活のために必要な訓練を受けます。 <small>しんたいうごくんれんせいかつひつようくんれん</small>
④就労移行支援 <small>しゅうろういこうしえん</small>	障害のある人が会社などで働けるように、仕事に必要な訓練をしたり、働くところを探したりします。 <small>しょうがいひとかいしゃはたら</small>
⑤就労継続支援（A型） ⑥就労継続支援（B型） <small>しゅうろうけいぞくしえん がた</small> <small>しゅうろうけいぞくしえん がた</small>	障害のある人で、会社などで働くことが難しい人が、手助けを受けながら仕事をします。A型は、会社のようにお給料がもらえますが、働き続けるための約束やきまりがあります。B型は、そういう約束やきまりはないです。 <small>しょうがいひとかいしゃはたらむずかひと</small> <small>てだすうしごと</small> <small>きゅうりょうはたらつづ</small> <small>やくそくがたやくそく</small>
⑦療養介護 <small>りょうようかいご</small>	重い障害のある人で病院に入院している人に、生活の手助けをします。 <small>おもいしょうがいひとびょういんにゅういんひとせいかつ</small>
⑧短期入所 <small>たんきにゅうしょ</small>	家族が病気になったときなどに、施設に短い間泊まって、おふろや食事などの世話をうけます。 <small>かぞくびょうきしせつみじかあいだと</small> <small>しよくじせわう</small>



サービスのなまえ	へいせい ねんど 平成27年度	へいせい ねんど 平成28年度	へいせい ねんど 平成29年度
①生活介護 <small>せいかつかいご</small>	つき 月に 1,743人 にん 35,671日 にち	つき 月に 1,797人 にん 36,775日 にち	つき 月に 1,845人 にん 37,758日 にち
②自立訓練 (機能訓練) <small>じりつくんれん きのうくんれん</small>	つき 月に 37人 にん 521日 にち	つき 月に 40人 にん 550日 にち	つき 月に 41人 にん 567日 にち
③自立訓練 (生活訓練) <small>じりつくんれん せいかつくんれん</small>	つき 月に 126人 にん 2,675日 にち	つき 月に 145人 にん 3,098日 にち	つき 月に 163人 にん 3,470日 にち
④就労移行支援 <small>しゅうろういこうしえん</small>	つき 月に 247人 にん 4,682日 にち	つき 月に 304人 にん 5,761日 にち	つき 月に 360人 にん 6,821日 にち
⑤就労継続支援 (A型) <small>しゅうろうけいぞくしえん</small> <small>がた</small>	つき 月に 73人 にん 1,788日 にち	つき 月に 77人 にん 1,891日 にち	つき 月に 80人 にん 1,958日 にち
⑥就労継続支援 (B型) <small>しゅうろうけいぞくしえん</small> <small>がた</small>	つき 月に 1,702人 にん 30,423日 にち	つき 月に 1,813人 にん 32,404日 にち	つき 月に 1,913人 にん 34,196日 にち
⑦療養介護 <small>りょうようかいご</small>	つき 月に 130人 にん	つき 月に 130人 にん	つき 月に 130人 にん
⑧短期入所 <small>たんにきにゅうしょ</small>	つき 月に 663人 にん 4,389日 にち	つき 月に 758人 にん 4,994日 にち	つき 月に 848人 にん 5,570日 にち

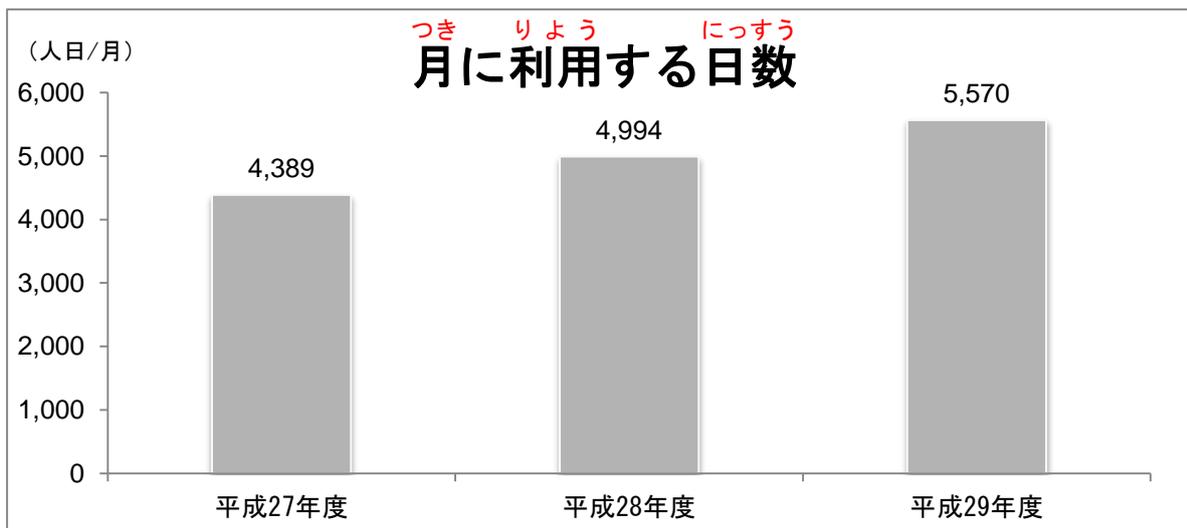
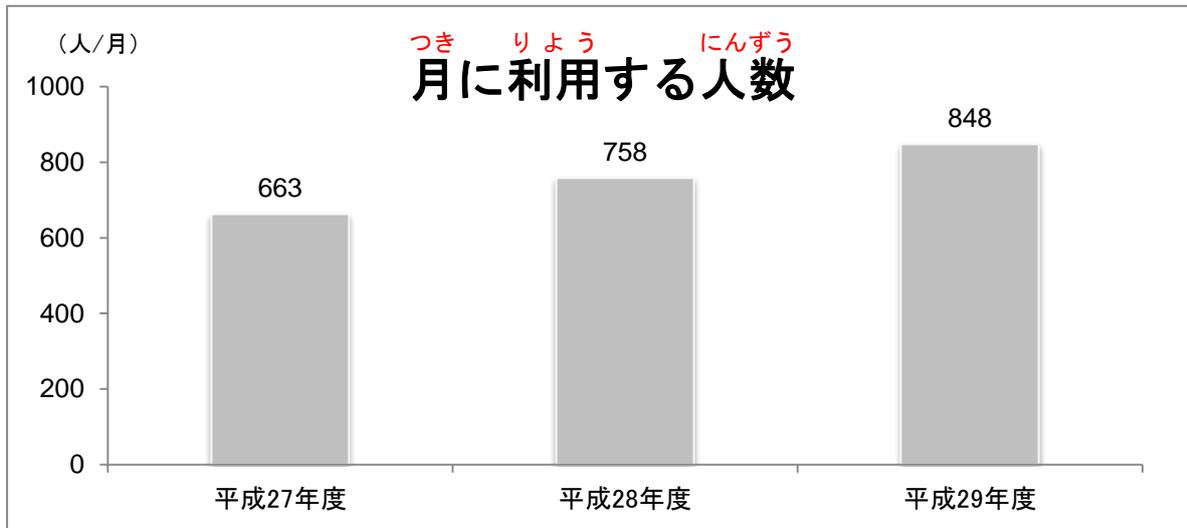
しょうがい ひと かよ てください う
 <障害のある人が通って手助けを受けるサービス>



ごうけい
 ※①から⑦の合計



しせつ みじか あいだと
〈施設に短い間泊まるサービス〉

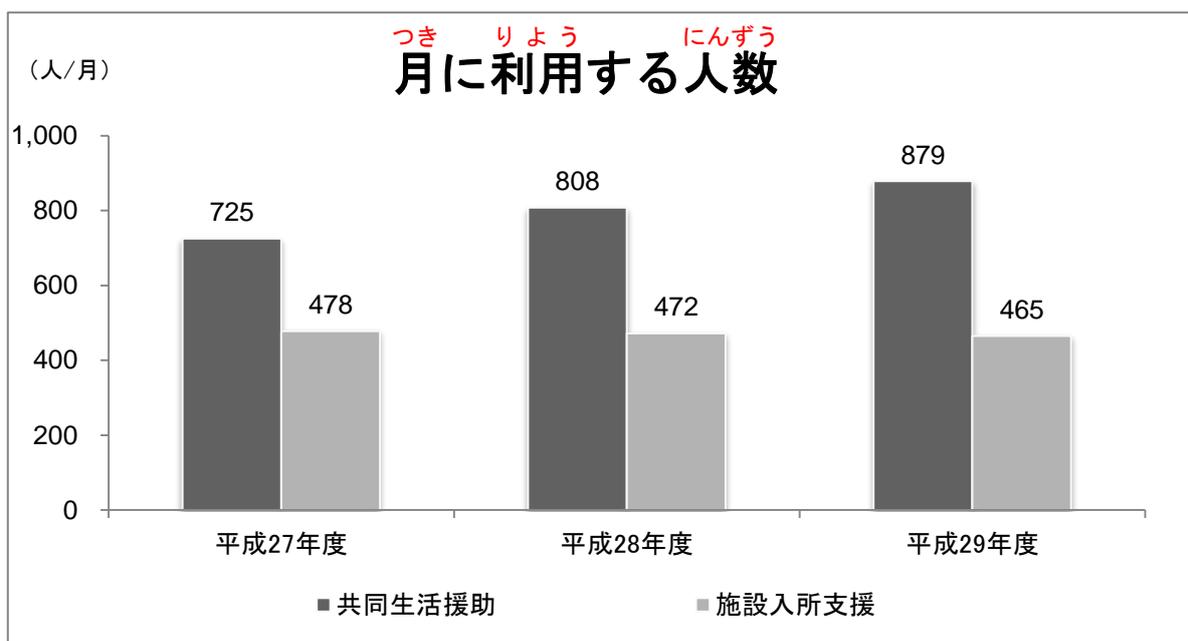


■ 障害のある人の住む場所のサービス

サービスのなまえ	こんなサービスです
① 共同生活援助 (グループホーム)	障害のある人たちが、お風呂や食事などの手助けを受けながら、いっしょに暮らす場所です。
② 施設入所支援	障害のある人たちが、生活の手助けを受けながら、施設で暮らします。

サービスのなまえ	平成27年度	平成28年度	平成29年度
① 共同生活援助 (グループホーム)	月に725人	月に808人	月に879人
② 施設入所支援	月に478人	月に472人	月に465人

< 障害のある人の住む場所のサービス >

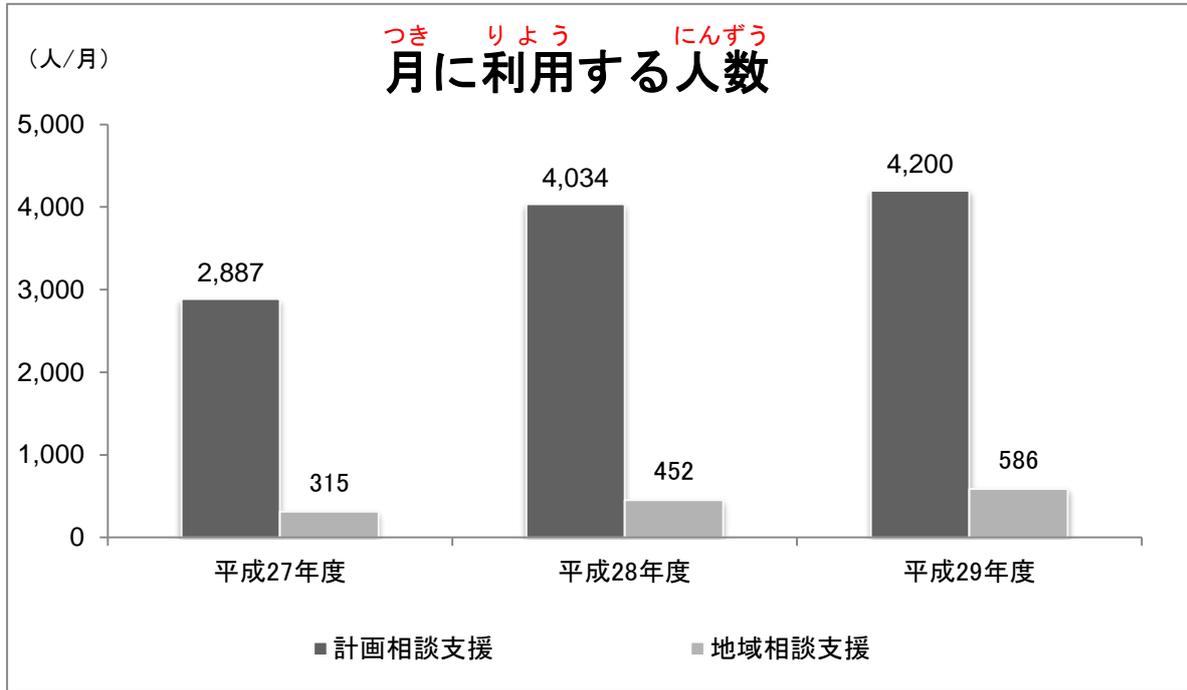


■ そうだん相談のサービス

サービスのなまえ	こんなサービスです
① <small>けいかくそうだんしえん</small> 計画相談支援	どんなサービスをどれぐらい <small>つか</small> 使うかという、サービスの <small>けいかく</small> 計画をつくる <small>てだす</small> 手助けをします。
② <small>ちいきそうだんしえん</small> 地域相談支援 <small>ちいきいこうしえん</small> (地域移行支援) <small>ちいきていちゃくしえん</small> (地域定着支援)	<small>しせつ</small> 施設や <small>びやういん</small> 病院から出て、 <small>ちいき</small> 地域で生活することができるように <small>てだす</small> 手助けをします。 <small>しせつ</small> 施設や <small>びやういん</small> 病院から出た人 <small>ひと</small> や、 <small>かぞく</small> 家族と <small>いっしょ</small> 一緒に <small>せいかつ</small> 生活から <small>ひとり</small> 暮らしをはじめた人などが、 <small>ちいき</small> 地域での生活がおちつくまで <small>てだす</small> 手助けをします。

サービスのなまえ	<small>へいせい ねんど</small> 平成27年度	<small>へいせい ねんど</small> 平成28年度	<small>へいせい ねんど</small> 平成29年度
① <small>けいかくそうだんしえん</small> 計画相談支援	<small>つき</small> 月に 2,887 <small>にん</small> 人	<small>つき</small> 月に 4,034 <small>にん</small> 人	<small>つき</small> 月に 4,200 <small>にん</small> 人
② <small>ちいきそうだんしえん</small> 地域相談支援 <small>ちいきいこうしえん</small> (地域移行支援) <small>ちいきていちゃくしえん</small> (地域定着支援)	<small>つき</small> 月に 315 <small>にん</small> 人	<small>つき</small> 月に 452 <small>にん</small> 人	<small>つき</small> 月に 586 <small>にん</small> 人

＜相談のサービス＞



※①と②の合計



■ ^{ちいき}地域での生活を手助けするいろいろなサービス

サービスのなまえ	こんなサービスです
<p>① ^{そうだんしえんじぎょう}相談支援事業</p>	<p>^{しょうがい}障害のある人^{ひと}や、その^{かぞく}家族などからの^{そうだん}相談を受けて、いろいろな^{てだす}手助けをします。「^{きかんそうだんしえん}基幹相談支援センター」というものをつくって、^{しょうがい}障害のある人からの^{むずか}難しい^{そうだん}相談や、たくさんの^{そうだん}相談をしっかりと^う受けて^{てだす}手助けできるように、^{そうだん}相談を受ける^{ちから}力を^{つよ}強くします。</p>
<p>② ^{じゅうたくにゆうきょとうしえんじぎょう}住宅入居等支援事業</p>	<p>^{しょうがい}障害のある人が、アパートなどを^か借りることを^{てだす}手助けします。</p>
<p>③ ^{しょうがいじ どう りょういく しえん}障害児等療育支援事業</p>	<p>^{しょうがい}障害のある子どもが^{ちいき}地域で^{あんしん}安心して^{そだ}育つことができるように^{てだす}手助けをします。</p>
<p>④ ^{はったつしょうがいしゃ しえん}発達障害者支援センター^{うんえいじぎょう}運営事業</p>	<p>^{はったつしょうがい}発達障害のある人のために、いろいろな^{てだす}手助けをするところをつくりま</p>
<p>⑤ ^{せいねんこうけんせいどりようしえん}成年後見制度利用支援事業</p>	<p>^{しょうがい}障害のある人が^かだまされたり^{かね}お金を^と取られたりしないように、^か代わりにいろいろな^{てつづ}手続きをしてくれる人^{ひと}を決めるための^{てだす}手助けをします。</p>
<p>⑥ ^{い し そつうしえんじぎょう}意思疎通支援事業</p>	<p>^{みみ}耳の不自由な人のために、^{しゅわ}手話や^{ちじ}文字で^{かいわ}会話を^{てだす}手助けします。 ^{おも}重い^{しょうがい}障害のある人が^{にゅういん}入院したときに、その人^{ひと}のことをよく^し知っている^{びょういん}ホームヘルパーや^いガイドヘルパーが^{びょういん}病院に行って、^{いしや}医者さんや^{かんごし}看護師さんとの^{かいわ}会話を^{てだす}手助けします。</p>

サービスのなまえ	こんなサービスです
⑦ 手話講習会、手話通訳者・要約筆記者養成講座など	耳の不自由な人のために、手話や文字で会話を手助けする人を育てるための教室を開きます。
⑧ 盲ろう者通訳・介助者派遣事業	目と耳の不自由な人のために、会話や介助などの手助けをします。
⑨ 日常生活用具給付等事業	障害のある人が、生活するときに必要になる道具などを渡します。
⑩ 移動支援事業	ひとりで外出することが難しい人のために、外出の手助けをします。
⑪ 地域活動支援センター機能強化事業	障害のある人が、仲間とっしょにいろいろな活動のできる場所をつくれます。
⑫ 日中一時支援事業	障害のある人が、手助けを受けながら、昼間を過ごすことのできる場所です。
⑬ 福祉ホーム	障害のある人で、家での生活が難しい人が、安い家賃で住むことのできる場所です。
⑭ 訪問入浴事業	お風呂に入ることが難しい人の家に、特別なお風呂を持って行って、お風呂に入ることを手助けします。
⑮ 視覚障害者生活訓練事業	目の不自由な人に、生活に必要な訓練などをします。
⑯ 社会参加支援事業	障害のある人が、地域でスポーツなどのいろいろな活動をすることを手助けします。

サービスのなまえ	へいせい ねんど 平成27年度	へいせい ねんど 平成28年度	へいせい ねんど 平成29年度
① 相談支援事業 <small>そうだんしえんじぎょう</small>	8 か所の基幹相談 支援センター <small>しよ きかんそうだん しえん</small>	8 か所の基幹相談 支援センター <small>しよ きかんそうだん しえん</small>	8 か所の基幹相談 支援センター <small>しよ きかんそうだん しえん</small>
② 住宅入居等支援事業 <small>じゅうたくにゅうきょとうしえんじぎょう</small>	必要な人に手助け します	必要な人に手助け します	必要な人に手助け します
③ 障害児等療育支援事業 <small>しょうがいじどうりょういくしえんじぎょう</small>	6 か所 <small>しよ</small>	7 か所 <small>しよ</small>	8 か所 <small>しよ</small>
④ 発達障害者支援センター 一運営事業 <small>はつたつしょうがいしやしえん うんえいじぎょう</small>	1 か所 1年間に 666人 <small>しよ ねんかん にん</small>	1 か所 1年間に 676人 <small>しよ ねんかん にん</small>	1 か所 1年間に 681人 <small>しよ ねんかん にん</small>
⑤ 成年後見制度利用支援 事業 <small>せいねんこうけんせいどりょうしえん じぎょう</small>	1年間に 22人 <small>ねんかん にん</small>	1年間に 23人 <small>ねんかん にん</small>	1年間に 24人 <small>ねんかん にん</small>
⑥ 意思疎通支援事業 <small>いしそつうしえんじぎょう</small>	手話や文字での 会話の手助け 1年間に 3,827人 <small>しゅわ もじ かいわ てだす ねんかん にん</small>	手話や文字での 会話の手助け 1年間に 3,879人 <small>しゅわ もじ かいわ てだす ねんかん にん</small>	手話や文字での 会話の手助け 1年間に 3,933人 <small>しゅわ もじ かいわ てだす ねんかん にん</small>
	手話で会話の手助 けをする人 8人 <small>しゅわ かいわ てだす ひと にん</small>	手話で会話の手助 けをする人 8人 <small>しゅわ かいわ てだす ひと にん</small>	手話で会話の手助 けをする人 8人 <small>しゅわ かいわ てだす ひと にん</small>
	重い障害のある 人が入院したと きの会話の手助け 1年間に 1,223人 <small>おもい しょうがい ひと にゅういん かいわ てだす ねんかん にん</small>	重い障害のある 人が入院したと きの会話の手助け 1年間に 1,284人 <small>おもい しょうがい ひと にゅういん かいわ てだす ねんかん にん</small>	重い障害のある 人が入院したと きの会話の手助け 1年間に 1,354人 <small>おもい しょうがい ひと にゅういん かいわ てだす ねんかん にん</small>



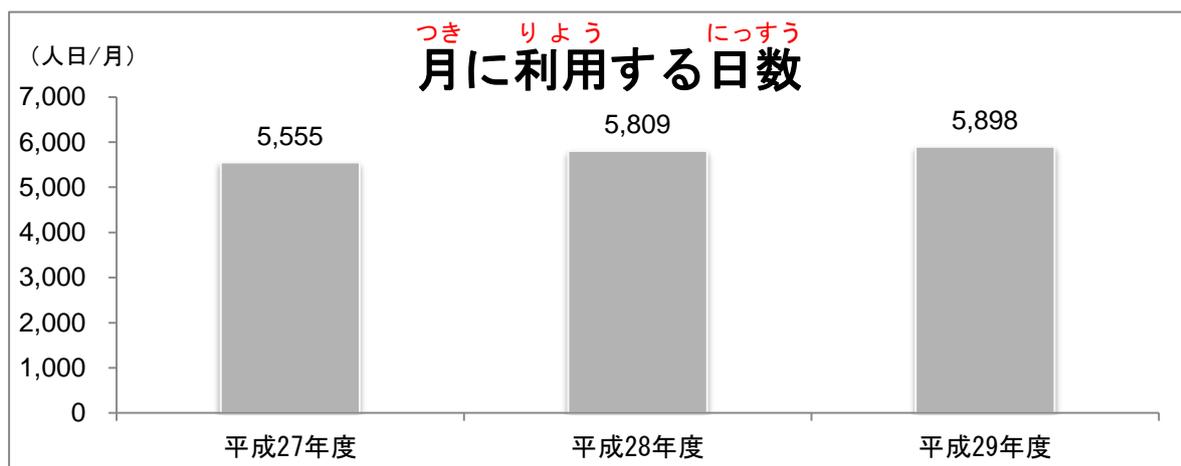
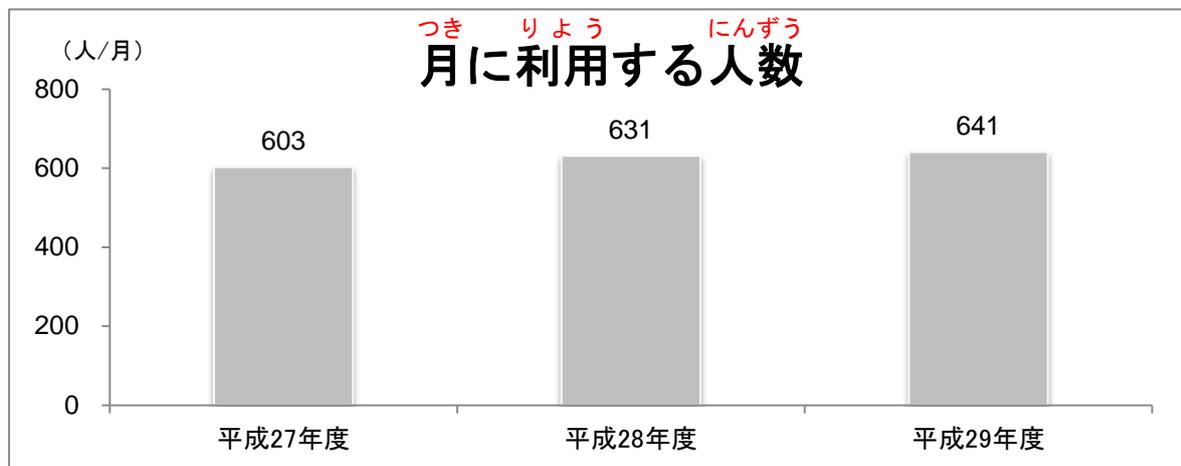
サービスのなまえ	へいせい ねんど 平成27年度	へいせい ねんど 平成28年度	へいせい ねんど 平成29年度
⑦ 手話 講習会、 手話通訳者・要約筆 記者養成講座など	あ 合わせて 193人が そつぎょう 卒業します	あ 合わせて 197人が そつぎょう 卒業します	あ 合わせて 200人が そつぎょう 卒業します
⑧ 盲ろう者通訳・ 介助者派遣事業	ねんかん 1年間に 17人	ねんかん 1年間に 17人	ねんかん 1年間に 18人
⑨ 日常生活用具給付 等事業	せいかつ ひつよう 生活に必要な、いろ いろな種類の道具 などを渡す件数 19,244件	せいかつ ひつよう 生活に必要な、いろ いろな種類の道具 などを渡す件数 19,460件	せいかつ ひつよう 生活に必要な、いろ いろな種類の道具 などを渡す件数 19,587件
⑩ 移動支援事業	ねんかん 1年間に 2,703人 556,066時間	ねんかん 1年間に 2,740人 563,833時間	ねんかん 1年間に 2,764人 569,062時間
⑪ 地域活動支援セン ター機能強化事業	18 箇所 ねんかん 1年間に 1,051人	21 箇所 ねんかん 1年間に 1,259人	24 箇所 ねんかん 1年間に 1,460人
⑫ 日中一時支援事業	ねんかん 1年間に 4,668日	ねんかん 1年間に 4,716日	ねんかん 1年間に 4,668日
⑬ 福祉ホーム	ねんかん 1年間に 5人	ねんかん 1年間に 5人	ねんかん 1年間に 5人
⑭ 訪問入浴事業	ねんかん 1年間に 41人	ねんかん 1年間に 42人	ねんかん 1年間に 43人
⑮ 視覚障害者生活 訓練事業	ねんかん 1年間に 40人	ねんかん 1年間に 40人	ねんかん 1年間に 40人
⑯ 社会参加支援事業	ひつよう ひと てだす 必要な人に手助け します。	ひつよう ひと てだす 必要な人に手助け します。	ひつよう ひと てだす 必要な人に手助け します。

■ 障害のある子どもを手助けするサービス

サービスのなまえ	こんなサービスです
① 児童発達支援 ② 医療型児童発達支援	障害のある子どもが通って、生活に必要なことを学んだり、集団生活に慣れるための訓練などをします。
③ 放課後等デイサービス	学校に通っている障害のある子どもが、手助けを受けながら、放課後や夏休みなどに過ごすことのできる場所です。
④ 保育所等訪問支援	指導をする人が保育所などに行き、障害のある子どもや保育所の職員などの手助けをします。
⑤ 障害児相談支援	障害のある子どもが、どんなサービスをどれくらい使うかという、サービスの計画をつくる手助けをします。

サービスのなまえ	平成27年度	平成28年度	平成29年度
① 児童発達支援	月に 529人 4,809日	月に 558人 5,073日	月に 569人 5,173日
② 医療型児童発達支援	月に 74人 746日	月に 73人 736日	月に 72人 725日
③ 放課後等デイサービス	月に 2,066人 15,056日	月に 2,190人 15,959日	月に 2,235人 16,287日
④ 保育所等訪問支援	月に 32回	月に 33回	月に 34回
⑤ 障害児相談支援	月に 470人	月に 642人	月に 678人

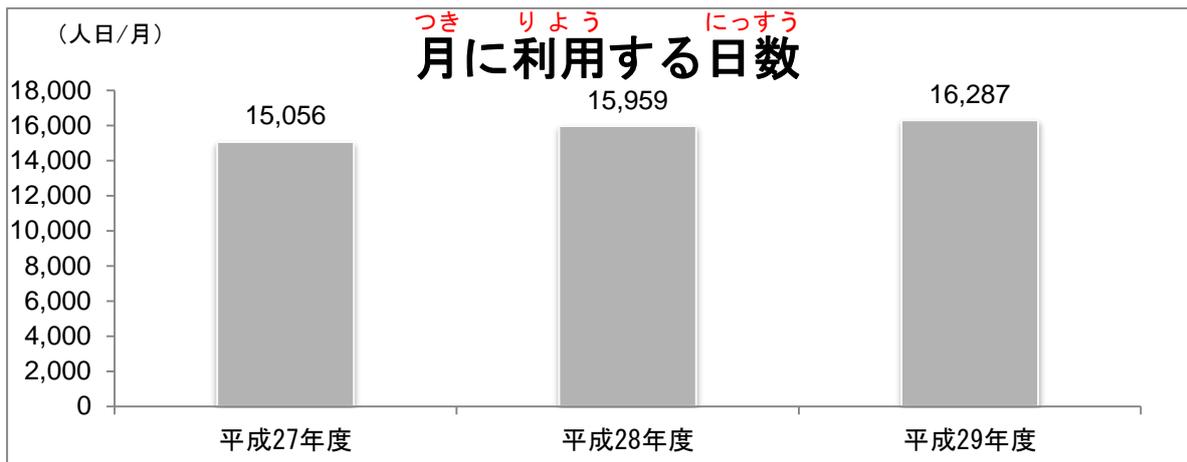
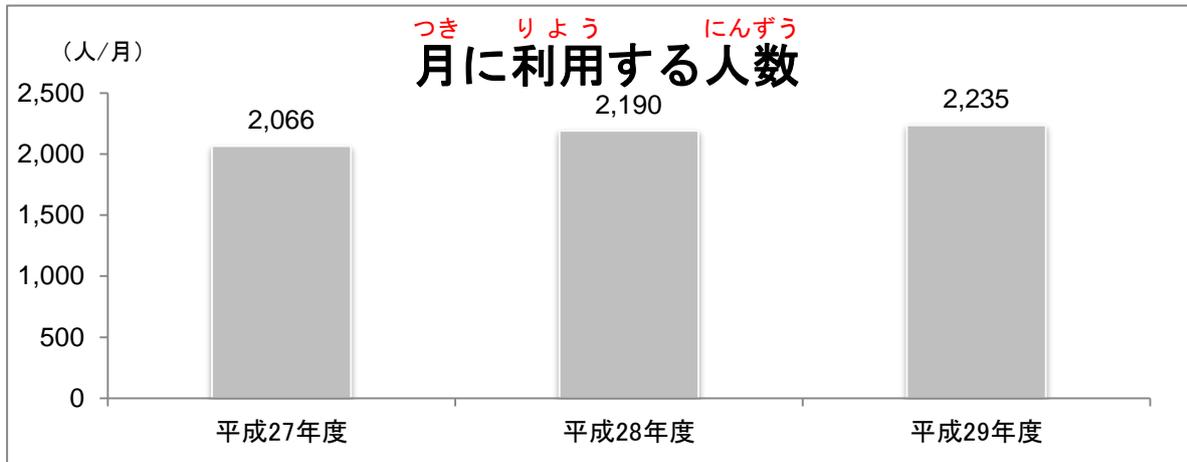
しょうがい ことば かよ まな くんれん サービス
 <障害のある子どもが通って学んだり訓練をするサービス>



※①と②の合計
 ごうけい



がっこう かよ しょうがい こ
 <学校に通っている障害のある子どもが、
 ほうかご なつやす す
 放課後や夏休みなどを過ごすサービス>



● 計画の進め方

◆ この計画が、ちゃんと進んでいるかどうか、きちんと調べることが大事です。障害のある人が、使いたい福祉のサービスをちゃんと使っているかどうか、施設や病院から出て、地域で生活する人が増えているかどうか、会社などで働く人が増えているかどうか、市役所の人々が1年に1回調べて、そのことをみんなに知らせます。

◆ 堺市に住んでいる障害のある人本人や家族の代表の人、障害のある人の福祉のことをよく知っている大学の先生、障害のある人の生活の手助けをするところで働いている人などが集まって、計画について話し合いをします。

◆ 市役所が調べたことをみんなで聞いて、もし、計画がちゃんと進んでいないということがわかったら、どうしたらいいかを話し合っ、計画をつくりなおしたり、計画がもっと進むような方法を考えたりして、みんなで力を合わせていきます。

